

古文化

受け継がれる、日本屋根の伝統美。

第132号



おおやまづみじんじや
大山祇神社 拝殿
[愛媛県今治市]



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

日本総鎮守
おおやまづみじんじゃ
大山祇神社

[愛媛県今治市大三島町宮浦]

由 緒

大山祇神社は、愛媛県今治市と広島県尾道市の間を10本の橋で結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」の拠点となる「大三島」の西側宮浦に位置し、日本最古の原始林社叢の楠群(国指定天然記念物)に覆われた境内に鎮座しています。社殿後方には「鷲ヶ頭山」、「安神山」、「小見山」の三山が見えます。本殿が再建された頃作られたとされる大山祇神社古図(国指定重要文化財)には、御本社・上津社・下津社の神体山として描かれ、三社を以て大山祇神社と崇めまつる信仰であります。島内最高峰の鷲ヶ頭山(標高436.5m)は古くは神野山と呼ばれ、現在でも頂上西側一帯は神野の地名を残しています。安神山は毎年1月7日の生土祭に用いる赤土を山麓にて拝戴し、小見山は「お宮の山」が変化したものとされ、いずれも大山祇神社との深い関係を伝えています。

御祭神は大山積大神一座。天照大神の兄神に当たります。古事記・日本書紀には「山の神」とあり、伊予国風土記には「御島(大三島)に坐す。神の名は大山積の神、一名を和多志の大神」とあり、山の神であると同時に、大海原の神、渡航の神とされています。神武天皇の御東征に先駆けて四国に渡った大山積大神の子孫である小千命が、この大三島に勧請鎮祭したと云われております。

大山積大神は天孫瓊瓊杵尊の皇妃として送り出した木花開耶姫命の父に当たり、皇室第一の外戚として、また我が国建国の大神として、全国津々浦々にその御分社が奉斎されています。



御神木「小千命御手植えの楠」
根周11m、樹高15.6m



藤原佐理が書いたとされる神額の写し(銅板)が掛けられている二ノ鳥居

国宝類を収蔵する「宝物館」

大山祇神社は古来日本総鎮守として尊称され、大正の御代には四国唯一の国幣大社に列せられました。平安時代の能書家 藤原佐理が、「日本総鎮守大山積大明神」と揮毫奉納した神額(扁額)は国の重要文化財に指定され、大切に保存されています。また、全国の国宝・国の重要文化財の指定を受けた武具類の約8割が、大山祇神社の宝物館に保存展示されています。甲冑の保存は全国一で、日本最古の平安中期の鎧をはじめ、鎌倉期～戦国時代まで各時代の代表する名品が展示されています。故に、当地大三島は「国宝の島」と呼ばれています。

本殿・拝殿(国指定重要文化財)

御本殿は三間社流造、胡粉・丹塗りで、屋根は檜皮葺。御拝殿は切妻造、素木、唐破風付向拝で、屋根は檜皮葺。共に室町時代初期の再建によるものです。御本殿の御扉は内開きとなっており、通常外開きの様であることを考えると極めて珍しいものと言えます。これはかつて神体山として三山を拝していたと云われていたが故に御扉を押し開くようにしたのではないかと考えられます。



左右に上津社・下津社が並ぶ「御本殿(国指定重要文化財)」

御神木(天然記念物)

御本殿正面にそびえる御神木は「小千命(乎知命)御手植の楠」と呼ばれ、ここに初めて神様を祀った大山積大神の子孫「小千命」によって植えられたと伝えるもので、樹齢2,600年あまりとされています。

全国社寺等屋根工事技術保存会 会長就任にあたって



平素は、当法人の活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、新会長に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

当会は、社寺など伝統的建造物の保護・保存を目的として、修復工事に携わる専門技術者の育成や、歴史的建造物の修繕技術の継承に努めてまいりました。先人から受け継がれた伝統的な技術をもって貴重な文化資産を後世に確実に引き継いでいくことが私たちに課された重要な使命です。

ユネスコの無形文化遺産にも登録されている伝統的屋根工事技術は、日本固有の職人技と美意識が凝縮された貴重な文化遺産です。しかし、時代の変化とともに専門技術者の後継者不足など、その継承には課題が山積しています。

この難しい局面を乗り越えるべく、行政、文化団体、教育機関など、様々な関係者と連携を深めながら、技術継承のための取り組みを強化し、伝統の美しさと優れた機能性を後世に引き継ぐため、屋根工事技術の保存・振興に全力を尽くす所存です。

この度、重責を担うこととなりましたが、先達の努力を受け継ぎ、伝統的な屋根工事技術の保護と発展に全力で取り組み社寺の伝統的な姿を後世に残していくため、会員の皆様とともに尽力してまいりたいと思います。

令和6年6月吉日

公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

会 長 友井 辰哉

令和6年度 第15回 定時会員総会の開催 事業報告など

令和6年度の定時会員総会を5月15日(水)に京都市文化財建造物保存技術研修センターにて行いました。45期事業報告、収支決算などについて慎重に審議され、原案通り議決、承認されました。

令和5年度 事業報告

①文化財屋根葺士養成研修事業 (国庫補助事業)

第25期生 前期研修

人 数●3名

期 間●令和5年5月8日(月)～9月22日(金)

研修区分●講義84時間

実習 620時間

講義場所●京都研修センター(京都市東山区)等

実習場所●兵庫方面 等

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和5年5月11日(木)

②場 所●河内長野市役所

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和5年6月8日(木)

③場 所●中部森林管理局管内(南木曾支署)

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和5年6月9日(金)

④場 所●秩父市役所

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和5年6月13日(火)

⑤場 所●和歌山森林管理署

人 数●2名(担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和5年7月7日(金)

⑥場 所●京都大阪森林管理事務所

人 数●2名(担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和5年7月14日(金)

⑦場 所●山口森林管理事務所

人 数●2名(担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和5年7月18日(火)

⑧場 所●広島森林管理署

人 数●2名(担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和5年7月19日(水)

⑨場 所●岡山個人林(吉川八幡宮)

人 数●1名(担当理事1名)

期 日●令和5年7月20日(木)

②檜皮採取者(原皮師)養成研修事業 (国庫補助事業)

1) 中級研修生(原皮師)研修

人 数●14名

期 間●令和5年8月28日(月)

～令和6年1月19日(金)

研修区分●講義 16時間

実習 1312時間

歩道整備 40時間

講義場所●京都研修センター(京都市東山区)

実習場所●国有林／[中部森林管理局管内]

賤母(長野)

[近畿中国森林管理局管内]

鞍馬山(京都)、八坂・仏通寺(広

島)、権現山(和歌山)、城山(山口)

市有林／[秩父市] 旧大滝村栃本(埼玉)

[河内長野市] 滝畑千石谷(大阪)

民有林／岡山個人林(岡山)

2) 採取全体会議

参 加 者●15名

期 日●令和5年6月12日(月)

会 場●京都研修センター(京都市東山区)

3) 森林管理署等の挨拶・打合せ

①場 所●近畿中国森林管理局

4) 檜山の調査

人 数●7名
期 間●令和5年6月13日(火)～7月19日(水)
調査場所●国有林／[中部森林管理局管内]
[近畿中国森林管理局管内]
市有林／[秩父市] 旧大滝村栃本(埼玉)
[河内長野市] 滝畑千石谷(大阪)
民有林／岡山個人林(岡山)

5) 第3回指導者、準会員合同研修会

参 加 者●29名
期 日●令和5年11月27日(月)、28日(火)
場 所●賤母国有林(長野県木曽郡)
南木曾会館 会議室(長野県木曽郡)
赤沢自然休養林(長野県木曽郡)
内 容●研修見学／「賤母国有林内における檜皮
採取見学」
講 話／「木曾式伐木運材図会」について
中部森林管理局 総務課
井上 日呂登 様
見学・解説／「赤沢自然休養林」
中部森林管理局木曾森林ふれ
あい推進センター
自然再生指導官 大久保 秀一 様

4) 第2回 茅部会

参 加 者●11名
期 日●令和5年8月4日(金)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
内 容●令和5年度及び令和6年度 茅事業につ
いて 等

5) 茅収納庫入荷の茅調査視察

調 査 員●2名
期 日●令和5年7月5日(水)、6日(木)
調査場所●大内宿(福島県南会津郡)

6) 茅葺き協議会(フォーラム)

参 加 者●26名
期 日●令和5年9月19日(火)、20日(水)
会 場●みちのく民俗村水車小屋(岩手県北上市)
北上市立博物館(岩手県北上市)
内 容●研修見学／「みちのく民俗村水車小屋
研修現場」
講義／「屋根茅葺技術の伝統性を考える」
[講師] 建築装飾技術史研究所
所長 窪寺 茂 様
講義／「盛岡藩領の家作をめぐる諸相」
[講師] 北上市立博物館
館長 渋谷 洋祐 様

3) 茅葺師養成研修事業(国庫補助事業)

1) 茅葺師養成研修(中級)

人 数●8名
期 間●令和5年6月～10月
研修区分●実習208時間
場 所●旧長谷川家住宅(新潟県長岡市)、みちの
く民俗村水車小屋(岩手県北上市)、舟井
家住宅(大阪府河内長野市)

2) 茅刈り研修

人 数●7名
期 間●令和6年1月15日(月)～20日(土)
研修区分●実習40時間
場 所●大室山(静岡県伊東市)

3) 第1回 茅部会

参 加 者●10名
期 日●令和5年5月18日(木)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
内 容●令和5年度茅事業について 等

4) 屋根板製作者養成研修事業 (国庫補助事業)

人 数●3名
期 間●令和5年9月25日(月)～10月5日(木)
研修区分●実習80時間
場 所●長野県

5) 「主任文化財屋根葺士」検定会 (京都市助成金)

1) 第22回(茅葺)

人 数●2名
期 間●令和5年6月5日(月)～10日(土)
場 所●山南研修センター(兵庫県丹波市)
内 容●主任文化財屋根葺士の認定・採点(茅)
実 技／令和5年6月5日(月)～9日
(金)
講義・学科／令和5年6月10日(土)
採 点／令和5年6月23日(金)
合格発表／令和5年6月30日(金)

検 定 員●外部 6 名(文化財建造物技術管理者)
内部 10 名(会長、副会長、常務理事、理事 2 名、茅部会員 5 名)

講演／「桂離宮の文化的背景と意匠」
[講師] 京都女子大学
名誉教授 斎藤 英俊 様

2) 第23回(檜皮・柿葺、茅葺)

人 数●4 名
期 間●令和 5 年 10 月 2 (月)～7 日(土)
場 所●山南研修センター(兵庫県丹波市)
内 容●主任文化財屋根葺士の認定・採点(檜皮、茅)
実 技／令和 5 年 10 月 2 日(月)～6 日(金)
講義・学科／令和 5 年 10 月 7 日(土)
採 点／令和 5 年 10 月 20 日(金)
合格発表／令和 5 年 10 月 30 日(月)
検 定 員●外部 5 名(文化財建造物技術管理者)
内部 14 名(会長、副会長、常務理事、理事 6 名、茅部会員 5 名)

3) 主任文化財屋根葺士 認定証更新講習会

参 加 者●15 名
期 日●令和 5 年 11 月 24 日(金)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
内 容●認定証の更新講習会／
「伝統技術の保存継承と今日的課題」
[講師] 京都女子大学
教授 鶴岡 典慶 様

6) 研修会

1) 指導者研修会

参 加 者●20 名
期 日●令和 5 年 5 月 17 日(水)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
内 容●講義／「建設業許可に係る注意・改正事項」
[講師] 森下行政書士・社会保険労務士事務所
代表 森下 政吾 様
講義／「今後の労働環境の変化と労働法制の変化について」
[講師] ありき社会保険労務士事務所
代表 有木 慎治 様

2) 文化財研修会

参 加 者●65 名
期 日●令和 6 年 1 月 22 日(月)
会 場●桂離宮(京都市西京区)
京都リサーチパーク(京都市下京区)
内 容●概要説明／宮内庁 京都事務所 工務課
桂離宮整備係 北 育央 様

7) 普及啓発事業

1) ふるさと文化財の森

「森が支える日本の技術2023 公開セミナー」
期 日●令和 5 年 11 月 3 日(金・祝)、11 月 4 日(土)、11 月 25 日(土)、12 月 8 日(金)
後 援●京都府教育委員会、京都市教育委員会、林野庁 近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所、公益財団法人 大学コンソーシアム京都、公益財団法人 京都古文化保存協会、公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団
会 場●京都研修センター(京都市東山区)、清水寺(京都市東山区)、日吉大社(滋賀県大津市)、嵐山国有林(京都市右京区)
内 容●檜皮葺及び茅葺技術・資材採取方法の実演、展示、研修

①檜皮葺・皮切り実演、茅葺実演、竹釘打ち体験、パネル展示

参 加 者●約 4,000 名
日 時●令和 5 年 11 月 3 日(金・祝)、4 日(土)
9 : 30～16 : 00
場 所●清水寺(京都市東山区)
人 数●16 名(執行理事、担当理事、企画委員 3 名、実演指導 2 名、実演補助 4 名、事務局 1 名、友好大使各日 4 名)

②現場修理写真や道具・模型の展示(パネル展示)

参 加 者●42 名
日 時●令和 5 年 11 月 3 日(金・祝)、4 日(土)
9 : 30～16 : 00
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
人 数●3 名(会長、常務理事、事務局)

③文化財講座

参 加 者●26 名
日 時●令和 5 年 11 月 3 日(金・祝)
10 : 30～12 : 00
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
内 容●講演／「建築構造学からみた我が国の伝統的木造建築」
[講師] 関西大学 環境都市工学部 建築学科
助教 西川 英佑 様

④ 檜皮採取実演

参加者 ● 約200名
日時 ● 令和5年11月25日(土)
10:00～15:00
場所 ● 日吉大社(滋賀県大津市)
人数 ● 5名(執行理事、担当理事、理事2名、
実演者1名)

⑤ 資材育成に関する研修事業

参加者 ● 10名
日時 ● 令和5年12月8日(金)
13:30～15:00
場所 ● 嵐山国有林(京都市右京区)
人数 ● 2名(執行理事、担当理事)
内容 ● 森林整備、除伐作業

2) 文化庁移転記念「日本の技フェア」 (文化庁主催)

参加者 ● 2,570名
日時 ● 令和5年11月18日(土)、19日(日)
10:00～17:00
会場 ● みやこめっせ(京都市左京区)
人数 ● 10名(会長、副会長、常務理事、理事2
名、企画委員4名、事務局1名)

3) 特別講座

① 第1回

参加者 ● 23名
日時 ● 令和5年9月2日(土)
14:00～16:00
会場 ● 京都研修センター(京都市東山区)
人数 ● 6名(会長、副会長、担当理事、企画
委員2名、事務局1名)
内容 ● 講演/「ものづくり×コミュニケーション
～これからの教育に必要なもの」
[講師] 人形作家 三浦 孝裕 様

② 第2回

参加者 ● 31名
日時 ● 令和6年2月24日(土)
14:00～16:00
会場 ● 京都研修センター(京都市東山区)
人数 ● 6名(会長、副会長、担当理事、企画
委員2名、事務局1名)
内容 ● 講演/「橿原神宮について」
[講師] 橿原神宮
宮司 久保田 昌孝 様

8 文化財修理用屋根葺資材の確保事業

1) 檜皮資材確保及び茅資材確保

優良な檜皮資材及び茅材の生産と確保の為、檜皮山
管理及び茅場管理

採取量 ● 研修各地/檜皮採取量 346丸
大内宿茅場/刈り取り量 189段
河内長野茅場/刈り取り量 1,190束

2) 檜皮採取の契約及び買受申込 (国庫補助事業)

国有林/中部森林管理局管内(賤母)
近畿中国森林管理局管内(鞍馬山、仏通寺、
権現山、城山)
市有林/秩父市(旧大滝村栃本)
河内長野市(滝畑千石谷)
民有林/岡山地方

① 契約日 ● 令和5年8月10日(木)

採取場所 ● [京都大阪森林管理事務所]
鞍馬山国有林(京都市左京区)

② 契約日 ● 令和5年8月18日(金)

採取場所 ● [和歌山森林管理署]
権現山国有林(和歌山県橋本市)

③ 契約日 ● 令和5年9月13日(水)

採取場所 ● [広島森林管理署]
八坂・仏通寺国有林(広島県三原市)

④ 契約日 ● 令和5年11月17日(木)

採取場所 ● [南木曽支署]
賤母国有林(長野県木曽郡)

⑤ 契約日 ● 令和5年12月19日(火)

採取場所 ● [山口森林管理事務所]
城山国有林(山口県岩国市)

9 賃貸事業

京都市文化財建造物保存技術研修センター

期間 ● 令和5年4月～令和6年3月

貸与先 ● 文化庁 文化資源活用課 支援係、立命館大
学 歴史都市防災研究所、一般社団法人文
化財修理技術保存連盟、一般財団法人全
国伝統建具技術保存会、文化財量保存会、
荒川化学工業(株) 経営企画部、伝統工芸と
京をガイドする会、浮世絵木版画彫摺技術
保存協会、小浜市ふるさと文化財の森センター

- (5)その他(研修制度、資格制度、カリキュラムの公開について)

Ⅹ 会報等の発行

保存会に必要な事業実施の報告等を内容とした会報を発行

[古文化] 第130号/令和5年7月31日発行

第131号/令和6年2月29日発行

[手 練] 第19号/令和6年2月掲載(HPのみ)

[選定保存技術養成研修事業 事業報告書]

/令和6年3月発行

Ⅺ その他法人の目的を達成するために必要な事業

1) 「伝統建築工匠の技」の保存、活用及び発展を推進する会

① 令和5年度 総会

期 日 ● 令和5年6月7日(水)

会 場 ● メール開催

議 案 ● (1)2022年度事業報告及び決算の承認について
(2)2023年度事業計画及び収支予算の承認について

② 令和5年度 臨時総会

期 日 ● 令和5年10月21日(土)

会 場 ● メール開催

議 題 ● ユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技」に追加する拡張提案を行うことについて

2) (一社)文化財修理技術保存連盟

① 令和5年度 通常総会(第1回理事会)

期 日 ● 令和5年5月19日(金)

会 場 ● リーガロイヤルホテル京都
(京都市下京区)

議 案 ● (1)令和4年度事業報告
(2)令和5年度事業予算
(3)理事長改選

② 第2回理事会

期 日 ● 令和6年1月26日(金)

会 場 ● 京都研修センター(京都市東山区)

議 事 ● (1)要望活動の報告について
(2)要望書のホームページ掲載について
(3)自民党友好団体の登録について
(4)任意団体「文化財修理技術保存連盟」の解散手続きについて

③ 第3回理事会

期 日 ● 令和6年3月18日(月)

会 場 ● 京都研修センター(京都市東山区)

議 事 ● (1)自民党友好団体の登録について
(2)要望書のホームページ掲載について
(3)文化庁の勉強会について
(4)文化庁の通達について
(5)その他

④ 第1回代表者会議

期 日 ● 令和5年6月16日(金)

会 場 ● 京都研修センター(京都市東山区)

議 事 ● (1)文技連を一般社団法人化する件について(補足①会則について 補足②要望活動について)
(2)文技連主催の研修を実施する件について
(3)文技連の積算資料編の周知と形式について
(4)安定的な仕事の発注について
(5)新体制の文技連の顧問・参与について
(6)その他(文技連の会員範囲の検討等)

⑤ 第2回代表者会議

期 日 ● 令和5年7月5日(水)

会 場 ● 京都研修センター(京都市東山区)

議 事 ● (1)6/29の議員連盟の会について
進捗報告
(2)要望書作成について
(3)文化庁の調査依頼について
(4)定款の内容について
(第1回会議の更新)
(5)会則の内容について
(第1回会議の更新)
(6)委員会(協議・制度・広報)について
(7)その他(登記について等)

⑥ 第3回代表者会議

期 日 ● 令和5年9月13日(水)

会 場 ● 京都研修センター(京都市東山区)

議 事 ● (1)令和5年度 制度委員、広報委員の
人事決裁
(2)一般社団法人化に関する進捗状況
(3)要望書作成のための各団体のデータ
検証
(4)その他(意見交換について等)

⑦第1回制度委員会

期 日●令和5年9月13日(水)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
議 事●(1)令和5年度 制度委員会 委員長決定
(2)今後の研修制度について

⑧第2回制度委員会

期 日●令和5年12月12日(火)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
議 事●研修制度・資格制度について各団体からの発表

⑨第1回広報委員会

期 日●令和5年9月13日(水)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
議 事●(1)令和5年度 広報委員会 委員長決定
(2)「日本の技フェア」などの広報活動について

⑩第2回広報委員会

期 日●令和5年12月12日(火)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
議 案●(1)今後の「日本の技フェア」について
(2)積算資料のデータ化について
(3)文技連ホームページについて

3) 全国文化財保存技術連合会

令和5年度総会

期 日●令和5年11月18日(土)
会 場●京都市京セラ美術館 講演室
(京都市左京区)
議 題●(1)令和4年度事業報告及び収支決算について
(2)令和6年度事業計画及び収支予算(案)について

**4) (公社) 全国国宝重要文化財所有者連盟
連絡協議会**

期 日●令和6年3月8日(金)
会 場●都ホテル京都八条(京都市南区)
議 事●(1)報告会
(本年度研修・伝承事業等報告)
(2)協議会
(伝統技術の継承等～意見交換)

5) 立命館大学文学部「文化遺産の保護と活用」

参 加 者●学生 110名
期 日●令和5年7月15日(土)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
人 数●3名(会長、副会長、担当理事)

内 容●伝統的屋根葺技術の説明、屋根葺体験
引 率 者●立命館大学文学部
非常勤講師 尾谷 雅彦 様

**6) 立命館大学歴史都市防災研究所
「2023年度ユネスコチェア国際研修」**

参 加 者●26名
期 日●令和5年9月12日(火)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
人 数●3名(副会長、理事2名)
内 容●伝統的屋根葺技術の説明、屋根葺体験
引 率 者●立命館大学文学部 衣笠総合研究機構
歴史都市防災研究所
准教授 サキャ ラタ 様

**7) 京都女子大学 家政学部 生活造形学科
「伝統技法演習」**

参 加 者●学生 71名
期 日●令和5年11月29日(水)、12月6日(水)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
人 数●3名(担当理事、実演者2名)
内 容●伝統的屋根葺技術の説明、檜皮材拵え
実演、屋根葺体験
引 率 者●京都女子大学 教授 鶴岡 典慶 様

**8) 奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科
「歴史遺産保存活用演習」**

参 加 者●学生 11名
期 日●令和5年11月9日(木)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
人 数●1名(担当理事)
内 容●伝統的屋根葺技術の説明、屋根葺体験
引 率 者●奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科
専任講師 坂井 禎介 様

9) 京都橘大学「産業文化論」

参 加 者●学生 107名
期 日●令和5年12月14日(木)
会 場●京都橘大学(京都市山科区)
人 数●1名(会長)
内 容●檜皮採取技術の講演

**10) 日本伝統建築技術保存会
「日本伝統建築技能研修(後期)」講座**

参 加 者●20名
期 日●令和5年12月9日(土)、10日(日)
会 場●八王子セミナーハウス大学院セミナー室
(東京都八王子市)
人 数●1名(会長)
内 容●伝統技術(檜皮・柿)について

11) ふるさと文化財の森システム推進事業

①第1回専門委員会

期 日●令和5年7月25日(火)
場 所●文化庁京都庁舎 特別会議室
議 題●(1)令和4年度の事業報告について
(2)ふるさと文化財の森システム推進事業
新規設定候補地について
(3)その他

②第2回専門委員会

期 日●令和6年3月5日(火)
場 所●文化庁京都庁舎 特別会議室
議 題●(1)令和5年度の事業実施状況について
(2)ふるさと文化財の森の新規設定について
(3)令和6年度普及啓発事業の公募について
(4)その他

12) 重要文化財建造物管理実務検討会

参 加 者●80名
期 日●令和5年10月12日(木)
場 所●キャンパスプラザ京都(京都市下京区)
人 数●1名(会長)
内 容●講演／「原皮師の仕事について」

13) 小浜市ふるさと文化財の森センター

「茅葺き屋根等の現状研修」

参 加 者●16名
期 日●令和6年2月25日(日)
場 所●京都研修センター(京都市東山区)
人 数●1名(会長)
内 容●講演／「伝統的屋根葺技術」

新役員の紹介

5月15日(水)に開催された第15回定時会員総会により、令和6・7年度の理事・監事が下記のとおり選出されましたので、ご報告いたします。

理 事 (名誉会長)	斎 藤 英 俊
〃 (会 長)	友 井 辰 哉
〃 (副 会 長)	河 村 雅 史
〃 (常務理事)	田 中 敬 二
〃	岩 崎 剛
〃	川 田 徳 宏
〃	児 島 真 介
〃	長 崎 貴 宣
〃	松 村 正 徳
〃	村 上 貢 章
監 事	大 野 浩 二
〃 (外部監事)	西 川 吉 典

収支決算書総括表

令和5年4月1日から令和6年3月31日

1. 収入の部

(単位:円)

科 目	合 計	一般会計	特別会計	センター会計	助成金会計	屋根会計	茅 会 計	採取会計	板製作会計
入 会 金 等 収 入	0	0							
会 費 収 入	6,682,000	6,682,000							
寄 付 金 収 入	0	0							
国庫補助金収入	43,500,000					10,300,000	5,700,000	26,672,575	827,425
助 成 金	500,000				500,000				
負 担 金 収 入	7,983,179				1,605,570	2,034,641	3,442,388	900,580	0
雑 収 入	300,311	230	103,915	196,134	3	11	7	11	0
事 業 収 入	10,107,170		7,627,200	2,479,970					
受 託 費 収 入	2,482,802		2,482,802						
繰 入 金 収 入	0	0		0					
当 期 収 入 合 計	71,555,462	6,682,230	10,213,917	2,676,104	2,105,573	12,334,652	9,142,395	27,573,166	827,425
前期繰越収支差額	10,899,056	8,366,972	2,410,841	121,243	0	0	0	0	0
収 入 合 計	82,454,518	15,049,202	12,624,758	2,797,347	2,105,573	12,334,652	9,142,395	27,573,166	827,425

2. 支出の部

科 目	合 計	一般会計	特別会計	センター会計	助成金会計	屋根会計	茅 会 計	採取会計	板製作会計
一 般 管 理 費	10,257,577	4,507,788	3,736,528	2,013,261					
管 理 委 託 費	630,795			630,795					
茅場管理事業費	124,302		124,302						
売上材料原価	2,427,600		2,427,600						
養成関連事業費	363,066		363,066						
研 修 会 事 業 費	1,169,770		1,169,770						
普及活動事業費	3,757,109		3,757,109						
檜皮採取事業費	0		0						
助 成 金 事 業 費	2,105,573				2,105,573				
屋根養成研修費	12,334,652					12,334,652			
茅葺技能者研修費	9,142,395						9,142,395		
採取者養成研修費	27,573,166							27,573,166	
板製作者養成研修費	827,425								827,425
負 担 金 支 出	7,983,179		7,983,179						
繰 入 金 支 出	0		0						
当 期 支 出 合 計	78,696,609	4,507,788	19,561,554	2,644,056	2,105,573	12,334,652	9,142,395	27,573,166	827,425
当 期 収 支 差 額	-7,141,147	2,174,442	-9,347,637	32,048	0	0	0	0	0
次期繰越収支差額	3,757,909	10,541,414	-6,936,796	153,291	0	0	0	0	0

令和6年度事業計画

①文化財屋根葺士養成研修事業 (国庫補助事業)

第25期生 後期研修

人 数●3名

期 間●令和6年5月20日(月)～9月20日(金)

研修区分●講義40時間

実習600時間

講義場所●京都研修センター(京都市東山区)等

実習場所●滋賀方面 等

③場 所●山口森林管理事務所

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和6年6月11日(火)

④場 所●広島森林管理署

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和6年6月12日(水)

⑤場 所●和歌山森林管理署

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和6年6月18日(火)

⑥場 所●京都大阪森林管理事務所

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和6年6月20日(木)

⑦場 所●河内長野市役所

人 数●4名(執行理事1名、担当理事1名、指導員1名、事務局1名)

期 日●令和6年7月5日(金)

②檜皮採取者(原皮師)養成研修事業 (国庫補助事業)

1) 中級研修生(原皮師)研修

人 数●13名

期 間●令和6年8月19日(月)～令和7年2月7日(金) 予定

研修区分●実習1288時間

歩道整備40時間

実習場所●国有林／[中部森林管理局管内]

賤母(長野)

[近畿中国森林管理局管内]

鞍馬山(京都)、仏通寺(広島)

権現山(和歌山)、城山(山口)

市有林／[秩父市]旧大滝村栃本(埼玉)

[河内長野市]滝畑千石谷(大阪)

民有林／[小浜市]明通寺(福井)

4) 檜山の調査

①場 所●[近畿中国森林管理局管内]城山国有林

人 数●3名(担当理事1名、事務局1名、研修生1名)

期 日●令和6年6月12日(水)

②場 所●[近畿中国森林管理局管内]仏通寺国有林

人 数●5名(担当理事1名、指導員1名、研修生3名)

期 日●令和6年6月12日(水)

③場 所●岡山個人林

人 数●1名(担当理事1名)

期 日●令和6年6月13日(木)

④場 所●[近畿中国森林管理局管内]権現山国有林

人 数●5名(担当理事1名、指導員1名、研修生3名)

期 日●令和6年6月19日(水)

⑤場 所●[近畿中国森林管理局管内]鞍馬山国有林

人 数●4名(担当理事1名、指導員1名、研修

2) 採取全体会議

参 加 者●15名

期 日●令和6年6月3日(月)

会 場●京都研修センター(京都市東山区)

3) 森林管理署等の挨拶・打合せ

①場 所●近畿中国森林管理局

人 数●3名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名)

期 日●令和6年6月5日(水)

②場 所●南木曽森林管理署

人 数●6名(執行理事1名、担当理事1名、事務局1名、研修生3名)

期 日●令和6年6月6日(木)

生2名)
期 日●令和6年6月20日(木)

⑥場 所●明通寺(福井県小浜市)
人 数●4名(執行理事1名、担当理事1名、指導員1名、事務局1名)
期 日●令和6年6月20日(木)

③茅葺師養成研修事業(国庫補助事業)

1) 茅葺師養成研修(中級)
人 数●3名予定
期 間●令和6年9月2日(月)～27日(金)
研修区分●実習168時間
場 所●旧武石家住宅(新潟県西蒲原郡)

2) 茅葺協議会(茅葺きフォーラム)
参 加 者●40名予定
期 日●令和6年9月18日(水)・19日(木)
会 場●旧武石家住宅・公民館麓支館(弥彦村ふるさと学校)(新潟県西蒲原郡)
内 容●全国の技能者を対象とし、茅葺の協議会

3) 茅刈り研修
人 数●6名予定
期 日●令和7年1月20日(月)～25日(土)
研修区分●実習40時間
場 所●大室山(静岡県伊東市)

4) 茅部会
参 加 者●12名
期 日●第1回 令和6年5月16日(木)
第2回 令和6年7月31日(水)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
内 容●令和6年度及び令和7年度茅事業について等

5) 茅収納庫入荷の茅調査視察
調 査 員●1名(担当理事)
期 間●令和6年6月7日(金)
調査場所●大内宿(福島県南会津郡)

④屋根板製作者養成研修事業(国庫補助事業)

人 数●3名
期 間●令和6年9月24日(火)～10月4日(金)予定

研修区分●実習80時間
実習場所●島根県

⑤「主任文化財屋根葺士」検定会(京都市助成金)

1) 令和6年度(檜皮・柿葺、茅葺)
人 数●3名予定
期 間●令和6年10月7日(月)～12日(土)
場 所●山南研修センター(兵庫県丹波市)
内 容●檜皮・柿葺士または茅葺師として10年以上従事し、今後とも活動する意志があると認められる葺士を対象として、年1回屋根葺の高度な技術及び知識を修得しているか否かを実技、座学で評価する。合格者には認定書を発行する。

2) 主任文化財屋根葺士 認定証更新講習会
参 加 者●19名
期 日●令和6年11月22日(金)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)
内 容●認定証の更新講習会

⑥研修会

1) 指導者研修会
参 加 者●30名予定
期 日●令和6年9月6日(金)
会 場●春日大社(奈良県奈良市)
内 容●見学・説明会等

2) 文化財研修会
参 加 者●100名前後
期 日●令和6年11月予定
会 場●鹿島神宮(茨城県鹿嶋市)
内 容●現場見学や文化財講演会を通じ、古来より先人達が築いてきた心と技を学ぶ。

⑦普及啓発事業

1) 特別講座
参 加 者●各30名前後
期 日●第1回 令和6年9月14日(土)
[講師] 庭園デザイナー 石原 和幸 様
第2回 令和6年12月7日(土)
[講師] 株式会社エデュワーク
代表取締役 越智 敏洋 様

会 場●京都研修センター(京都市東山区)
内 容●一般の方々を対象に、人数制限を行った
うえ講演会を開催する。

2) 日本の技 体験フェア(文化庁主催)

人 数●5名(保存会関係者)予定
期 日●令和6年11月2日(土)、3日(日)
会 場●宮城県仙台市

3) ふるさと文化財の森「森が支える日本の技術 2024公開セミナー」

期 日●令和6年11月2日(土)、12月8日(日)
会 場●京都研修センター(京都市東山区)、清
水寺(京都市東山区)、園城寺(滋賀県大
津市)

8文化財修理用屋根葺資材の確保事業

1) 檜皮資材確保及び茅資材確保

優良な檜皮資材及び茅材の生産と確保の為、檜皮山
管理及び茅場管理。

檜皮山
大内宿(福島県南会津郡)
岩湧山(大阪府河内長野市)

2) 檜皮採取の契約及び買受申込 (国庫補助事業)

国有林●[中部森林管理局管内] 賤母(長野)
[近畿中国森林管理局管内] 鞍馬山(京
都)、仏通寺(広島)、権現山(和歌山)、
城山(山口)
市有林●秩父市
河内長野市
民有林●福井県小浜市

9賃貸事業

市民の文化の向上及び発展に資するため、文化財建造
物その他の文化財保存と技術の継承を図るための事業
を実施する法人等に施設を貸与する。

京都市文化財建造物保存技術研修センター

期 間●令和6年4月～令和7年3月
貸 与 先●京都市、(公社)全国社寺等屋根工事技術
保存会、(一社)文化財修理技術保存連盟、
(一財)全国伝統建具技術保存会、各種選
定保存技術保存団体 等

10会報等の発行

保存会に必要な事業実施の報告等を内容とした会報を
発行

[古文化] 第132号/令和6年7月発行予定
第133号/令和7年2月発行予定
[手 練] 第20号/令和7年2月掲載予定(HPのみ)
[選定保存技術養成研修事業 事業報告書]
/令和7年3月発行予定

11其他法人の目的を達成するために必要な 事業

1) ふるさと文化財の森システム推進事業専門 委員会

「ふるさと文化財の森設定について 等」
期 日●未定

2) 「伝統建築工匠の技」の保存、活用及び発展 を推進する会 全体会議

期 日●未定

3) (一社)文化財修理技術保存連盟 令和6年度 通常総会

期 日●未定

4) 全国文化財保存技術連合会 総会

期 日●未定

5) (公社)全国国宝重要文化財所有者連盟 連絡協議会

期 日●未定

収支予算書総括表

令和6年4月1日から令和7年3月31日

1. 収入の部

(単位;円)

科 目	合 計	一般会計	特別会計	センター会計	助成金会計	屋根会計	茅 会 計	採取会計	板製作会計
入 会 金 等 収 入	0	0							
会 費 収 入	6,322,000	6,322,000							
寄 付 金 収 入	0	0							
国庫補助金収入	43,000,000					9,300,000	6,700,000	25,800,000	1,200,000
事 業 収 入	13,000,000		11,400,000	1,600,000					
雑 収 入	150,237	227	150,010	0					
受 託 費 収 入	2,982,500		2,982,500						
助 成 金	500,000				500,000				
当 期 収 入 合 計	65,954,737	6,322,227	14,532,510	1,600,000	500,000	9,300,000	6,700,000	25,800,000	1,200,000
前期繰越収支差額	3,757,909	10,541,414	-6,936,796	153,291	0	0	0	0	0
収 入 合 計	69,712,646	16,863,641	7,595,714	1,753,291	500,000	9,300,000	6,700,000	25,800,000	1,200,000

2. 支出の部

科 目	合 計	一般会計	特別会計	センター会計	助成金会計	屋根会計	茅 会 計	採取会計	板製作会計
一 般 管 理 費	10,758,000	4,305,000	4,480,000	1,973,000					
管 理 委 託 費	680,000			680,000					
茅場管理事業費	150,000		150,000						
売上材料原価	2,500,000		2,500,000						
養成関連事業費	0		0						
研 修 会 事 業 費	950,000		950,000						
普及活動事業費	3,200,000		3,200,000						
檜皮採取事業費	0		0						
森 林 整 備 事 業	0		0						
助 成 金 事 業 費	1,080,000				1,080,000				
屋根養成研修費	10,050,000					10,050,000			
茅葺技能者研修費	8,400,000						8,400,000		
採取者養成研修費	26,800,000							26,800,000	
板製作者養成研修費	1,350,000								1,350,000
当 期 支 出 合 計	65,918,000	4,305,000	11,280,000	2,653,000	1,080,000	10,050,000	8,400,000	26,800,000	1,350,000
当 期 収 支 差 額	36,737	2,017,227	3,252,510	-1,053,000	-580,000	-750,000	-1,700,000	-1,000,000	-150,000
次期繰越収支差額	3,794,646	12,558,641	-3,684,286	-899,709	-580,000	-750,000	-1,700,000	-1,000,000	-150,000

文化財屋根葺士養成研修 第25期生 後期研修 開始

期 間 ● 令和6年5月20日(月)～9月20日(金)
会 場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

令和6年度 文化財屋根葺士養成研修 第25期生の後期研修が末岡治人(株式会社小山社寺工業所)、友井康介(株式会社友井社寺)、平尾零(株式会社松村工務店)の3名で京都市文化財建造物保存技術研修センターにて始まりました。

後期の研修内容としては、材料整形・葺実習(京都研修センター)、現場実習(各会社)、専門工法、積算、仕様、工程管理、建築史演習、実測、製図、卒業実習となります。葺実習、卒業実習では自分達で屋根の面積などを実測し、数量を出し、材料整形で講師の方々に教えてもらい拵えた材料で屋根を葺く、という初めての経験をします。座学もたくさんの科目があります。

短い日数の中で、色々な事を勉強し、理解して身に付けていくのは大変なことだと思います。この研修で屋根葺士として必要な知識と技術を身に付け、研修終了後に

は「この研修を受けて良かった」と言えるような研修にしてください。

また最後になりますが、研修でご指導をいただく関係者の皆様には、この屋根葺士養成研修が有意義なものになりますように、ご指導ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



模型葺き実習



材料整形



模型葺き実習



竹釘製作



模型葺き実習

令和5年度 特別講座 開講(全2回)

第2回「^{かし はら じん ぐう} 榎原神宮について」

榎原神宮

宮司 久保田 昌孝



日時 ● 令和6年2月24日(土) 14:00～16:00
会場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

広大な境内に森林遊苑、芝生広場、水鳥が集う池やカフェなど、地域住民に憩いの場としても親しまれている榎原神宮。なぜ「日本のはじまりの地」と呼ばれるのか、その成り立ちや歴史など、興味深い話を久保田宮司に伺いました。

【講演内容要約】

次の世代へと受け継がれ

大和三山の一つ、^{うね びやま}畛傍山の麓に神域を持ちます^{かしはらじん}榎原神宮は、明治23年(1890)に創建された、まだまだ新しい神社です。そのちょうど50年後の昭和15年(1940)、紀元2600年(神武天皇即位2600年)となる年に、榎原神宮は大きな変革を遂げました。従来あった境内地からさらに拡張整備がなされ、御社殿も新たに造られ、非常に大きな神社に生まれ変わりました。

それから30年以上が経ち、私が奉職いたしました昭和49年(1974)には、建物の屋根等は非常に傷んでいました。歴史の重みを感じる重厚な屋根ではありますが、檜皮には苔が生え、いまにも崩れ落ちそうな様でありました。ただ、ちょうど屋根の葺き替え事業が始まったところで、当時の宮司が、本殿や幣殿など、重要な建物については従来通りの檜皮葺とし、その他の建物については耐用年数が上がる銅板葺に代えるという方針を打ち出されておりまして、昭和52年(1977)にはすっかり美しい屋根になりました。

代々繋がる道を切り開く

まだ前宮司のときのことですが、平成28年(2016)が榎原神宮のご祭神 神武天皇^{ほむぎみ}崩御2600年祭という節目を迎える年でした。それより100年前の大正5年(1916)が崩御2500年祭で、榎原神宮に隣接しております神武天皇陵に時の大正天皇、貞明皇后が^{ていめい}行幸啓あそばされ、その後に榎原神宮にご^{しんめつ}親謁されたという記録がありま

す。前宮司からは、「100年後の今の時代に果たして天皇皇后両陛下がお参りくださるのかは分らないが、2600年という節目の年に屋根がぼろぼろでは宜しくない。葺き替えの手はずを整えてほしい」と頼まれました。榎原神宮の御本殿は国の重要文化財ですから、早速奈良県の文化財課に話を持っていきました。奈良県は、国宝、重要文化財の建物が多いところです。そのときは、屋根の葺き替えやその他の修理で手いっぱいということで、なかなか首を縦には振っていただけませんでした。

そこで、文化庁や技術者の皆様ともなるべくパイプを持てるよう努力を続けておりましたところに前宮司が退任され、平成26年(2014)9月、私が第20代宮司を拝命いたしました。奈良県は、当初は無理だと言いつつも、一部の関係業者に「平成26年から27年にかけて榎原神宮の屋根葺き替え工事をするかもしれないので材料を集めておいてほしい」と依頼をかけてくださっていたようです。お陰さまで、平成26年(2014)10月末に御本殿から^{みたま}仮の御殿に移す^{かりでんせん}仮殿遷座祭を斎行し、工事着手に向けて動き出すことができました。平成28年(2016)3月には無事に御本殿の屋根がきれいに葺き上がり、4月3日に天皇皇后両陛下のご親謁を仰ぎ、無事神武天皇崩御2600年祭を執り行うことができました。私が宮司になってからすぐの大工事でしたが、とにかくうまくいくようにお願い続けておりました。

1日でも長く屋根が持つように、われわれも皆様方のご指導をいただきつつ、日々保存に向けて頑張っておりたいと思います。



スライドを見ながら傾聴している参加者の皆さん

祭神は127歳の御長寿

前置きが少し長くなりましたが、本題に入らせていただきます。

橿原神宮は「神武天皇」と「媛蹈鞰五十鈴媛皇后」の二柱をお祀りしています。神武天皇は、天照大神の孫瓊瓊杵尊の3代目に当たります。「日本書紀」においては神日本磐余彦火火出見天皇と申し上げ、その系図によりますと、天照大神の直系に当たられる方ということになります。

橿原神宮の御神徳は開運延寿です。なぜ開運延寿の神様かと申しますと、神武天皇は御年45歳で九州の日向国高千穂宮（現在の宮崎県）をご出発になり、6年という年月を経て大和国へ入られ、畝傍山の東南、橿原の地に都を定められました。紀元前660年2月11日のことでした。この間、筆舌に尽くしがたいほどの困難に見舞われながらも、九死に一生を得ることができたのは、世界平和の理想を実現するために、天照大神がお力添えされたからに他なりません。また、様々な困難の末にも大業を成し遂げられたことは、神武天皇ご自身が大変運勢強大な方であったからだとも言えます。

また、橿原宮で即位され、御在位76年で実に127歳の長寿を全うされました。「古事記」では137歳と云われていますが、神武天皇がいかにご長寿であられたかを物語っており、いつの時代も私たち国民が心から願う健康、延命長寿の理想を神武天皇自らが具現されたと言えるのではないのでしょうか。二つ合わせて、開運延寿の御神徳を持つ神様ということになるわけです。

日本の原点となる橿原の地

では、神武天皇とはどういう方だったのでしょうか。神武天皇は、第1代天皇として即位された方です。天業恢弘、世界平和の理想を持たれています。天業恢弘というのは天子の事業を押し広めようとすることを意味し、天照大神が願われた国づくりを実現することです。神武天皇らがもともと居られた九州高千穂は、天照大神が高天原（天上）同様に、葦原中国（人間の住む国）を平和で豊かな国にしたいと願われ、天孫の瓊瓊杵尊を遣わされた場所です。瓊瓊杵尊は天照大神のお言葉に従い、様々なお務めを果たされました。

では、その瓊瓊杵尊の孫である神武天皇はなぜ九州からこの橿原の地に向かわれたのでしょうか。九州は日本の端です。いくらこの地で正しい政治を行っても、皆さんの気持ちに届けるのは難しいと思われ、高千穂を離れて東に向かう決意をされたのです。そして、瓊瓊杵尊によってもたらされた恩恵をもっと国中に広めたいと願われました。このことは、神武東征や神武東遷と云われ、第1代神武天皇として即位された橿原の地は、日本国はじまりの地となります。

神武天皇の建国理念

「日本書紀」にもありますが、神武天皇がこの橿原の地で天皇の位に就かれたときのお言葉「奠都の詔」に、「夫れ大人の制を立つる、義必ず時に随ふ。苟も民に利あらば、何ぞ聖造に妨はむ。皇孫の正を養ひたまひし心を弘めむ」とあります。これはどういうことかと申しますと、元来、為政者が政治を執り行うには、必ずその時代とその世のありさまに合わせてすべきである。仮にもそれが民に利益のあることであれば、間違いはない。瓊瓊杵尊が養われた正しき道（正義）を広めよう、と仰っているのです。また、「然して後に六合を兼ねて以て都を開き、八紘を掩ひて宇と為むこと、亦可からずや」と続きます。国を一つにする都を開き、天下を家としようと思っている。よいことではないか、と。このいわゆる八紘一宇の大理想が神武天皇の理想であり、日本建国の理念であるわけです。ところが、戦前において、「日本がともかく中心になる」というような間違った解釈がなされてしまったことは非常に残念なことです。日本という国が平和を愛する民族であるということは、これらを読み解けば分かることです。

天皇の御心は神武天皇のみならず、その後の皇室にも受け継がれています。第124代昭和天皇が昭和8年（1933）の歌会始の御題「朝海」を詠まれた御製に、「あめつちの 神にぞいのる 朝なぎの 海のごとくに 波たたぬ世を」とあります。昭和8年というと、大陸でもすでに戦禍が開かれており、国内においても五・一五事件、国際連盟からの脱退等、いつ世界大戦が起こるやもしれない、非常に危険な時代でした。そういう時代に昭和天皇がひたすら平和を願われて歌われたものであります。

この昭和天皇の御製をもとに、紀元2600年を奉祝して作舞された「浦安の舞」が昭和15年（1940）に全国の神社のご社頭で一斉に舞われました。「浦安」とは心安らかという意味が込められています。世界の様々な国や地域では今なお紛争が起きています。橿原神宮では、毎月お祭りのときにこの「浦安の舞」をご神前に奏上して、一日も早く平和な世の中が来るようにと祈念しております。



現在も広く全国の神社で舞われている昭和天皇御製「浦安の舞」

民間からの請願により創建

大政奉還が行われた慶応3年(1867)に徳川幕府は廃絶しました。そのときに出された「王政復古の重大令」の一文には、「諸事神武創業之始ニ原キ」とあります。明治という近代日本は、神武天皇の時代に立ち返ることを理念に始まりました。

明治10年(1877)代になると、宮址顕彰の気運が高まり、民間から宮址碑の建立や橿原神社の創建出願が相次ぎました。古来、畝傍山の周辺には、上代の天皇陵や往昔の遺跡が数多く残っていましたが、神武天皇が即位した東南麓の橿原宮址は畑地となっていました。これは、橿原宮が当代一代限りのもので、新帝が新たな宮を造営すると、旧宮は取り払われて耕地に還元されていたと考えられるからです。

明治政府は、明治22年(1889)に神社創建を認可し、京都御所から内侍所(賢所)と神嘉殿の2棟が下賜され、橿原神宮の本殿と拝殿になりました。この移築が完了したのが明治23年(1890)1月で、その時代最高の社格「官幣大社」として同年4月に橿原宮址に御鎮座し、創建となりました。

「官幣大社」という格式名は、明治維新以降、「延喜式」に倣って新たに神社を等級化した制度ですが、戦後に廃止されています。その社格は官社と諸社に分けられます。官社は、国から奉幣を受ける神社で、神祇官より幣帛を奉られる「官幣社」、地方官より幣帛を奉られる「国幣社」とあり、それぞれに大・中・小の格が付きます。「官幣社」は「国幣社」より格が上とされるため、「官幣大社」が最高の社格となります。

お問い合わせやご質問の中に、「社号」があります。神社名に付される称号のことで、神宮・宮・大社・神社などに分けられます。橿原神宮の「神宮」とは、元々は天照大神を祀る伊勢神宮の固有名称でしたが、官幣大社の中で日向三代の皇祖やご聖徳の特に著しかった歴代天皇をお祭りした神社、あるいは古来神宮と称した慣例のある神社などの称号とされ、全国に27社のみとなります。「宮」は、歴代天皇や皇族、歴史上の重要な人物をお祀りしている神社、由緒により古くから呼称としている神社に使われています。「大社」は古来、大国主命を祀る出雲大社のみ示した社号でしたが、戦後は、他の神社にもいくつか使用されるようになりました。

また、「勅祭社」とは、祭祀に際して天皇により勅使が遣わされる神社のことですが、橿原神宮は大正6年(1917)に勅祭社に治定されました。全国16社あるうちの1社となります。

橿原神宮整備事業の変遷

橿原神宮は神威の尊厳を保ち、宮域の神聖を確保するために、明治44年から寄付金を募ることとなりました。



昭和15年(1940)、奉祝記念事業として行われた宮域拡張整備の様子。

また、明治45年(1912)の国費支出願いにより、大正4年(1915)から6か年にわたり国費が支出され、その翌年には追加下付もあり、大規模な宮域拡張・施設の整備事業が行われました。大正11年(1922)には、更なる拡張整備計画が可決されましたが、大正12年(1923)に発生した関東大震災により国庫支出は中止となりました。しかし、奈良県により設置された、橿原神宮外苑ともいえる畝傍公園は、宮域の尊厳と風致の保存に役立つこととなりました。整備事業は大正15年(1926)に竣成し、創建当初の2万159坪(約6万7000㎡)だった宮域は、約1.8倍の3万6600坪(約12万㎡)にまで拡張されました。

ただ、創建当初の拝殿では祭典の規模が大きくなるにつれ不都合が出てくるようになったため、昭和4年(1929)に移築して再使用することとし、昭和6年(1931)に新たな拝殿が造られました。この建築を手掛けたのは、後に世界最古の木造建築法隆寺五重塔をはじめ、多くの国宝や重要文化財の解体修理、薬師寺再建に人生を捧げた宮大工 西岡常一さんでした。

御鎮座50年に当たる昭和15年(1940)は、ちょうど神武天皇即位2600年に当たるため、国を挙げての奉祝記念事業として、社殿の修築、宮域と神武天皇陵の拡張整備、駅舎や線路の移設などが計画されました。このうち、宮域の拡張と外苑の建設は、作業延日数500日余りを掛け、7200団体、延べ121万人余りの勤労奉仕で行われ、



宮域の拡張時に植栽された献木は90種・22,534本。

宮域は約16万坪(約53万㎡)に拡張されました。

また、宮域の造成に約7万6000本余りの樹木が植栽されましたが、その内の2万2000本余りは全国から寄せられた献木^{けんぼく}でした。

戦後の転換期を迎え

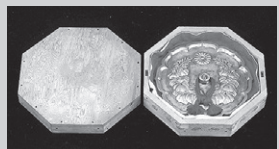
神社というのは戦前まで国の管轄でしたが、第二次世界大戦後に国家の管理から離れることになりました。氏子を持たない橿原神宮は、護持運営上、多くの困難に直面しました。屋根の葺き替え一つとっても膨大な費用が掛かるわけですので、お賽銭だけでは賄い切れません。そこで、大勢の方に親しまれ、訪れていただけるような神社となるよう、様々な事業を行ったということが古い記録書に残されています。現在も続けておりますが、子どもたちに慣れ親しんでもらうための林間学園や書き初め大会などを始めたのが戦後の時代というわけです。

昭和41年(1966)には、神武天皇が即位されたことに由来する国民の祝日「建国記念の日」制定に伴う全国運動の盛り上がりなどがありました。平成2年(1990)には紀元2650年を迎えるとともに、橿原神宮御鎮座百年記念大祭が斎行されました。橿原神宮御鎮座から現在まで、256名ものご皇族にご参拝を賜り、明治天皇奉納の太刀や昭憲皇太后奉納の御鏡「白銀八角鏡」、上皇陛下、上皇后陛下御奉納の御鏡「橿原の杜 他付属品一式」、神武天皇の肖像画にしばしば描かれている、群馬県藤岡市の古墳から出土した^{かぶつちのたち}「頭椎大刀」など、平成12年(2000)に開館した宝物館には奉納品が多数保存されています。

●橿原神宮の宝物



明治天皇御奉納の太刀



昭憲皇太后御奉納の御鏡
「白銀八角鏡」



「頭椎大刀」が描かれている「武神像」



「頭椎大刀」



毎年2月11日、勅使参向のもとに行われる「紀元祭」

紀元2700年に向かって

令和22年(2040)には、神武天皇が橿原の宮で即位され、建国されてから2700年を迎えます。昭和15年(1940)の紀元2600年では国を挙げての奉祝行事が行われ、国中が湧き立ちました。現在、当時とは社会情勢も大きく異なり、国民の思いも異なりますが、神武天皇が宮崎から東征せられた橿原の地で日本国を建てられたことは「古事記」「日本書紀」にも書かれていて、紛れもない事実でありますので、その節目の年を国民こぞってお祝いしたいと考えております。

この記念の年に向かい、橿原神宮に一人でも多くの方々にお越しいただけるよう、更なる環境整備に努めて参ります。皆さまのご参拝を心よりお待ちしております。

本日は、ご清聴いただきありがとうございました。

くぼた まさたか 久保田 昌孝氏 プロフィール

昭和26年(1951)1月28日生まれ、東京都出身。

駒澤大学・國學院大學を経て、

昭和49年(1974)「橿原神宮」奉職。

昭和50年(1975) 権禰宜、平成9年(1997) 禰宜、
奉賛課長、祭儀部長、総務部長兼秘書部長を歴任。

平成26年(2014)3月 宮司代務者に就任。

平成26年(2014)9月1日付 第20代 橿原神宮宮司
に就任。

神社本廳評議員・学校法人皇學館評議員・伊勢神宮
崇敬会評議員等々。

会 員 名 簿

公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会の会員名簿をご紹介します。届け出内容等に変更がございましたら、事務局 Tel 075-541-7727 か Fax 075-532-4064 までお知らせください。

■法人・個人登録(檜皮葺・柿葺、茅葺、檜皮採取、屋根板製作部門)

No.	正 会 員 名	担当者名	〒	住 所	TEL FAX	HP アドレス メールアドレス
1	明石屋根工事(有)	長崎 貴宣	701-0303	岡山県都窪郡早島町前湯 126-2	086-482-0056 086-483-1212	https://akashiyane.com
2	(有) 石塚商店	石塚 直幸	669-3154	兵庫県丹波市山南町梶 525-1	0795-76-1064 0795-76-2119	
3	岩崎社寺工業(株)	岩崎 剛	526-0814	滋賀県長浜市石田町 493-2	0749-62-4743 0749-62-5628	https://yanecho.com/about
4	(株) 上野建設	上野 千代栄	037-0316	青森県北津軽郡中泊町 芦野字堤の袖 148-75	0173-57-3825 0173-57-3227	
5	(有)大城戸社寺工業	大城戸 昇	679-0302	兵庫県西脇市黒田庄町 黒田 432	0795-28-4631 0795-28-4682	
6	(有) 大西茅葺	大西 謙之	578-0924	大阪府東大阪市吉田 1丁目 12-20	072-961-6015 072-961-6015	kayabuki2014@sage.ocn.ne.jp
7	(株)大野檜皮工業	大野 浩二	669-3101	兵庫県丹波市山南町上滝 855	0795-78-0352 0795-71-4129	
8	(株)小山社寺工業所	小山 真人	812-0054	福岡市東区馬出 5-36-43	092-641-4847 092-641-2278	oyamashaji@orion.ocn.ne.jp
9	狩野興建(株)	狩野 邦成	812-0054	福岡市東区馬出 5-26-11	092-651-2345 092-651-3060	
10	亀井 輝彦	亀井 輝彦	677-0013	兵庫県西脇市日野町 302-1	0795-23-5332 0795-23-5332	https://www.kamei-shaji.com t.kamei.728@gmail.com
11	(株)茅葺屋根保存協会	水野 暁彦	329-0516	栃木県下野市大光寺 1丁目 5 番 11 号	0285-51-0786 0285-52-1586	https://www.kayabuki.co.jp kemuler@kayabuki.co.jp
12	(株)河村社寺工殿社	河村 雅史	520-0113	滋賀県大津市坂本 2-8-33	077-578-0229 077-578-0169	
13	岸田工業(株)	岸田 信行	607-8464	京都市山科区上花山 久保町 74-1	075-593-2325 075-581-9498	https://kishida-kogyo.com kishida@waltz.ocn.ne.jp
14	(有) 吉川社寺	吉川 昌治	699-1822	島根県仁多郡奥出雲町 下横田 457-1	0854-52-2026 0854-52-2168	
15	木下 岩男	木下 岩男	526-0814	滋賀県長浜市石田町 588	0749-62-7160 0749-62-7186	
16	楠本 浩史	楠本 浩史	648-0211	和歌山県伊都郡高野町 高野山 73-4	0736-56-2154 0736-56-2158	hiwadabukifuruya@iaa.itkeeper.ne.jp
17	(有) 熊谷産業	熊谷 秋雄	986-0202	宮城県石巻市北上町 橋浦字行人前 190	0225-67-2045 0225-67-2032	postmaster@kayabuki-yane.com
18	栗山木工(有)	栗山 由己	399-5504	長野県木曽郡大桑村野尻 2271-6	0264-55-2134 0264-55-4034	
19	(株)越乃かやぶき	大石 保男	946-0216	新潟県魚沼市須原 1000 番 1	025-797-3387 025-797-4032	http://www.koshino-kayabuki.com kayabuki@waltz.ocn.ne.jp
20	(株)児島工務店	児島 真介	700-0827	岡山市北区平和町 4-7	086-232-2223 086-223-9424	https://www.kojima1720.com kojima2223@nifty.com

No.	正 会 員 名	担当者名	〒	住 所	TEL FAX	HP アドレス メールアドレス
22	小 西 繁 俊	小 西 繁 俊	639-3115	奈良県吉野郡吉野町 吉野山526-2	0746-32-8510 0746-32-8510	konishikougei@kcn.jp
23	阪 上 卓	阪 上 卓	648-0037	和歌山県橋本市賢堂182	0736-32-0791 0736-32-0791	
24	杉 本 惣 一	杉 本 惣 一	616-8041	京都市右京区花園 寺ノ前町26	075-464-5970 075-464-5970	
25	田 中 社 寺 (株)	田 中 敬 二	500-8483	岐阜市加納東丸町2-20	058-272-2871 058-276-1329	https://www.tanakashaji.co.jp info@tanakashaji.co.jp
26	谷上社寺工業(株)	川 田 徳 宏	633-0053	奈良県桜井市谷旭町 904-2	0744-42-2790 0744-42-5389	https://www.tanigamisyaji.co.jp tanigamik@helen.ocn.ne.jp
27	伝匠舎(株)石川工務所	石 川 重 人	404-0042	山梨県甲州市塩山上於曾 1990	0553-32-2170 0553-32-2171	ishikawa@densho-sha.co.jp
28	(株)友井社寺	友 井 辰 哉	669-3111	兵庫県丹波市山南町阿草 1302	0795-78-0810 0795-78-0002	https://www.tomoi-shaji.com tomoishaji@gmail.com
29	長 谷 部 直 之	長谷部 直之	602-0036	京都市上京区室町通今出 川上ル西入蒔島屋町143	075-451-3563 075-415-1388	
30	(有)ひわだや	佐々木 真	753-0036	山口市円政寺町5-4	083-922-1651 083-922-1800	http://www.hiwadaya.com hiwadaya@estate.ocn.ne.jp
31	(株)松村工務店	松 村 正 徳	529-1537	滋賀県東近江市市子殿町 1369番地	0748-55-8008 0748-55-8018	kkmatumura@ex.bw.dream.jp
32	(有)宮川屋根工業	塩 田 隆 司	604-0985	京都市中京区麩屋町通 竹屋町上ル舟屋町415	075-231-3396 075-212-2040	miya-ne@taupe.plala.or.jp
33	(株)村上社寺工芸社	村 上 貢 章	669-3103	兵庫県丹波市山南町篠場 443-1	0795-78-0158 0795-78-0708	https://murakamisyaji.com murakamisyaji.cic@beach.ocn.ne.jp
34	山 香 正	山 香 正	872-0103	大分県宇佐市北宇佐 1551	0978-37-3393 0978-37-3393	

(2024.5.15 現在)

■名誉会員

No.	名誉会員名	〒	住 所	TEL	FAX
1	岩 崎 長 蔵	526-0814	滋賀県長浜市石田町493-2	0749-62-4743	0749-62-5628
2	小 山 儀 一 郎	812-0054	福岡市東区馬出5-36-43	092-641-4847	092-641-2278
3	河 村 直 良	520-0113	滋賀県大津市坂本2-8-33	077-578-0229	077-578-0169
4	岸 田 重 信	607-8464	京都市山科区上花山久保町74-1	075-593-2325	075-581-9498
5	熊 谷 貞 好	986-0202	宮城県石巻市北上町橋浦字行人前190	0225-67-2045	0225-67-2032
6	栗 山 光 博	399-5504	長野県木曾郡大桑村野尻2271-6	0264-55-2134	0264-55-4034
7	児 島 研 輔	700-0827	岡山市北区平和町4-7	086-232-2223	086-223-9424
8	隅 田 隆 蔵	633-2136	奈良県宇陀市大宇陀区大熊579	0745-83-2870	0745-83-2870
9	長 崎 眞 知 夫	701-0303	岡山県都窪郡早島町前湯126-2	086-482-0056	086-483-1212
10	村 上 英 明	669-3103	兵庫県丹波市山南町篠場443-1	0795-78-0158	0795-78-0708
11	松 村 正 義	529-1537	滋賀県東近江市市子殿町1369番地	0748-55-8008	0748-55-8018

(2024.5.15 現在)

■賛助会員

No.	職別	名 称	〒	住 所	TEL
1	社 寺	関 伽 井 坊	744-0024	山口県下松市末武上398	0833-44-8409
2		天 野 山 金 剛 寺	586-0086	大阪府河内長野市天野町996	0721-52-2046
3		伊 賀 八 幡 宮	444-0075	愛知県岡崎市伊賀町東郷中86	0564-26-2789
4		石 山 寺	520-0861	滋賀県大津市石山寺1-1-1	077-537-0013
5		石 上 神 宮	632-0014	奈良県天理市布留町384	0743-62-0900
6		嚴 島 神 社	739-0588	広島県廿日市市宮島町1-1	0829-44-2020
7		出 雲 大 社	699-0701	島根県出雲市大社町杵築東195	0853-53-3100
8		石 清 水 八 幡 宮	614-8588	京都府八幡市八幡高坊30	075-981-3001
9		宇 佐 神 宮	872-0102	大分県宇佐市南宇佐2859	0978-37-0001
10		永 保 寺	507-0014	岐阜県多治見市虎溪山町1-40	0572-22-0351
11		比 叡 山 延 暦 寺	520-0116	滋賀県大津市坂本本町4220	077-578-0551
12		大 崎 八 幡 宮	980-0871	宮城県仙台市青葉区八幡4-6-1	022-234-3606
13		大 神 神 社	633-8538	奈良県桜井市三輪1422	0744-42-6633
14		大 山 祇 神 社	794-1393	愛媛県今治市大三島町宮浦3327	0897-82-0032
15		意 賀 美 神 社	598-0024	大阪府泉佐野市上之郷45	072-468-0540
16		尾 張 大 國 霊 神 社	492-8137	愛知県稲沢市国府宮1-1-1	0587-23-2121
17		園 城 寺	520-0036	滋賀県大津市園城寺町246	077-522-2238
18		柏 原 八 幡 宮	669-3309	兵庫県丹波市柏原町柏原八幡山1-1	0795-72-0156
19		鹿 島 神 宮	314-0031	茨城県鹿嶋市宮中2306-1	0299-82-1209
20		春 日 大 社	630-8212	奈良市春日野町160	0742-22-7788
21		香 取 神 宮	287-0017	千葉県香取市香取1697	0478-57-3211
22		賀 茂 御 祖 神 社	606-0807	京都市左京区下鴨泉川町59番地	075-781-0010
23		賀 茂 別 雷 神 社	603-8047	京都市北区上賀茂本山339	075-781-0011
24		吉 備 津 神 社	701-1341	岡山市北区吉備津931	086-287-4111
25		吉 備 津 彦 神 社	701-1211	岡山市北区一宮1043番地	086-284-0031
26		清 水 寺（京 都）	605-0862	京都市東山区清水1-294	075-551-1234
27		清 水 寺（安 来）	692-0033	島根県安来市清水町528	0854-22-2151
28		金 峯 山 寺	639-3115	奈良県吉野郡吉野町吉野山2498	0746-32-8371
29		杭 全 神 社	547-0046	大阪市平野区平野宮町2-1-67	06-6791-0208
30		熊 野 本 宮 大 社	647-1731	和歌山県田辺市本宮町本宮1110	0735-42-0009
31		氣 多 大 社	925-0003	石川県羽咋市寺家町ク1-1	0767-22-0602
32		國 前 寺	732-0048	広島市東区山根町32番1号	082-261-4578

No.	職別	名 称	〒	住 所	TEL
33	社 寺	国 分 寺 (備 中)	719-1123	岡山県総社市上林1046	0866-92-0037
34		金 剛 輪 寺	529-1202	滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺873	0749-37-3211
35		護 国 八 幡 宮	932-0836	富山県小矢部市埴生2992	0766-67-1220
36		志波彦神社 鹽竈神社	985-8510	宮城県塩竈市一森山1-1	022-367-1611
37		真 珠 庵	603-8231	京都市北区紫野大徳寺町52	075-492-4991
38		慈 眼 院	598-0021	大阪府泉佐野市日根野626	072-467-0092
39		十 三 神 社	640-1235	和歌山県海草郡紀美野町野中493	073-495-3755
40		浄 土 寺	722-0043	広島県尾道市東久保町20-28	0848-37-2361
41		住 吉 神 社	751-0805	山口県下関市一の宮住吉1-11-1	0832-56-2656
42		住 吉 大 社	558-0045	大阪市住吉区住吉2-9-89	06-6672-0753
43		瑞 龍 寺	933-0863	富山県高岡市関本町35	0766-22-0179
44		善 光 寺	380-0851	長野市元善町491	026-234-3591
45		談 山 神 社	633-0032	奈良県桜井市多武峰319	0744-49-0001
46		醍 醐 寺	601-1325	京都市伏見区醍醐東大路町22	075-571-0002
47		大 徳 寺	603-8231	京都市北区紫野大徳寺町53	075-491-0019
48		太 宰 府 天 満 宮	818-0195	福岡県太宰府市宰府4-7-1	092-922-8225
49		竹 林 寺	739-2208	広島県東広島市河内町入野3103	082-437-1171
50		智 満 寺	427-0001	静岡県島田市千葉254	0547-35-6819
51		長 福 寺	701-2602	岡山県美作市真神414	0868-74-2026
52		津 島 神 社	496-0851	愛知県津島市神明町1	0567-26-3216
53		出 羽 三 山 神 社	997-0292	山形県鶴岡市羽黒町手向字手向7	0235-62-2355
54		東 福 寺	605-0981	京都市東山区本町15丁目778	075-561-0087
55		那 谷 寺	923-0336	石川県小松市那谷町コ122	0761-65-2111
56		那 智 山 青 岸 渡 寺	649-5301	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智山8	0735-55-0001
57		南 宮 大 社	503-2124	岐阜県不破郡垂井町宮代1734-1	0584-22-1225
58		野 上 八 幡 宮	640-1141	和歌山県海草郡紀美野町小畑625	073-489-2162
59		日 御 碕 神 社	699-0763	島根県出雲市大社町日御碕455	0853-54-5261
60		日 吉 大 社	520-0113	滋賀県大津市坂本5-1-1	077-578-0009
61		廣 八 幡 宮	643-0064	和歌山県有田郡広川町上中野206	0737-62-2371
62		富士山本宮浅間大社	418-0067	静岡県富士宮市宮町1-1	0544-27-2002
63		法 隆 寺	636-0115	奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺山内1-1	0745-75-2555
64		法 華 経 寺	272-0813	千葉県市川市中山2-10-1	047-334-3433
65		本 山 寺	708-1536	岡山県久米郡美咲町定宗403	0868-62-1050

No.	職別	名 称	〒	住 所	TEL
66	社 寺	御 上 神 社	520-2323	滋賀県野洲市三上838	077-587-0383
67		御 調 八 幡 宮	722-1513	広島県三原市八幡町宮内13	0848-65-8652
68		三 船 神 社	649-6123	和歌山県紀の川市桃山町神田101	0736-66-1620
69		美 保 神 社	690-1501	島根県松江市美保関町美保関608	0852-73-0506
70		妙 成 寺	925-0002	石川県羽咋市滝谷町ヨ-1	0767-27-1226
71		宗 像 大 社	811-3505	福岡県宗像市田島2331	0940-62-1311
72		八 坂 神 社	563-0043	大阪府池田市神田4-7-1	072-751-3790
73		龍 源 院	603-8231	京都市北区紫野大徳寺町82-1	075-491-7635
74		瑠 璃 光 寺	753-0081	山口市香山町7-1	083-922-2409
75		六 所 神 社	444-0864	愛知県岡崎市明大寺町字耳取44	0564-51-2930
1	そ の 他	神 宮 司 庁 営 繕 部	516-0023	三重県伊勢市宇治館町1	0596-24-1111
2		高 林 家 住 宅	591-8037	大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町5-647	072-255-6998

(2024.5.15 現在)

■ 準会員

No.	氏 名	職 種
1	青 木 照 幸	檜皮葺
2	青 山 亨	檜皮葺・柿葺
3	朝 野 達 也	檜皮葺・柿葺
4	芦 田 健 太	檜皮葺・柿葺
5	蘆 田 祐 明	檜皮葺・柿葺
6	足 立 健 一	檜皮葺・柿葺
7	足 立 大 茂	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
8	安 部 悟 司	柿 葺 屋根板製作
9	飯 野 映 稚	檜皮葺・柿葺
10	石 井 潤	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
11	石 川 和 重	管理
12	石 塚 健 一	竹釘製作
13	市 原 健	檜皮葺・柿葺
14	一 色 律 男	檜皮葺・柿葺
15	伊 藤 貴 弘	檜皮葺・柿葺
16	伊 藤 延 行	檜皮葺・柿葺
17	井 上 裕 貴	檜皮採取
18	居 原 田 浩 樹	檜皮葺・柿葺
19	入 江 匠	檜皮葺・柿葺
20	岩 崎 正	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
21	大 石 薫 利	檜皮葺・柿葺
22	大 西 康 純	茅 葺
23	大 野 隼 矢	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
24	緒 方 伸 也	檜皮葺
25	岡 野 史 和	檜皮葺・柿葺
26	奥 田 治 郎	檜皮葺・柿葺
27	奥 田 正 博	檜皮葺・柿葺
28	尾 崎 良 助	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
29	加 々 美 栄	茅 葺
30	方 山 和 也	檜皮葺・柿葺
31	勝 部 哲 也	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
32	金 沢 翔 太	茅 葺
33	包 國 眞 匠	檜皮葺・柿葺
34	金 子 英 生	檜皮葺・柿葺
35	亀 谷 芳 弘	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
36	嘉 本 洋 士	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
37	川 瀬 皆 人	檜皮葺・柿葺
38	河 野 修 二 郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
39	菊 池 保	茅 葺
40	岸 斗 萌	檜皮葺・柿葺
41	岸 田 智 太 郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
42	岸 田 直 彦	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
43	吉 川 圭 一	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
44	吉 川 晋 二	柿 葺 屋根板製作
45	木 戸 智 裕	屋根板製作
46	木 下 和 也	檜皮葺・柿葺
47	木 下 真 介	檜皮葺・柿葺
48	木 村 健 太	檜皮葺・柿葺
49	清 田 幸 臣	檜皮葺・柿葺
50	栗 山 弘 忠	屋根板製作

No.	氏 名	職 種
51	小 池 一 平	檜皮葺・柿葺
52	古 田 島 進	管 理
53	後 藤 哲 夫	檜皮採取
54	小 西 康 介	檜皮葺・柿葺
55	小 西 繁 信	檜皮葺・柿葺
56	小 林 洋 介	茅 葺
57	小 原 一 樹	檜皮葺・柿葺
58	近 藤 竜 太	檜皮採取
59	寒 河 江 清 人	檜皮葺・柿葺
60	佐 々 木 綾 子	檜皮葺
61	佐 々 木 孝 則	茅 葺
62	佐 藤 偉 仁	茅 葺
63	猿 橋 成 博	茅 葺
64	澤 田 昌 己	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
65	品 川 琉 心	檜皮葺・柿葺
66	島 田 伊 織	茅 葺
67	下 村 眞 士	檜皮葺・柿葺
68	末 岡 治 人	檜皮葺・柿葺
69	須 賀 均	檜皮葺 檜皮採取
70	須 賀 将 志	檜皮葺・柿葺
71	杉 谷 功	檜皮葺・柿葺
72	鈴 木 礼 央	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
73	高 木 諒	屋根板製作
74	高 平 勝 也	檜皮葺・柿葺
75	竹 森 暢 哉	檜皮葺・柿葺
76	立 木 覚 士	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
77	田 中 智 紗 衣	管 理
78	田 中 智 也	管 理
79	寺 田 美 乃 里	檜皮葺・柿葺
80	富 樫 忠 義	茅 葺
81	戸 梶 憲 幸	檜皮葺・柿葺
82	友 井 康 介	檜皮葺・柿葺
83	中 島 信	茅 葺
84	永 瀬 慶 祐	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
85	中 西 純 一	茅 葺
86	中 西 祥 也	檜皮葺・柿葺
87	永 原 光 敬	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
88	中 村 裕 司	檜皮葺・柿葺
89	新 津 侑 樹	茅 葺
90	西 裕 之	檜皮葺・柿葺
91	西 堀 大 樹	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
92	西 村 聡 央	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
93	西 村 信 生	檜皮葺・柿葺
94	野 谷 嘉 邦	檜皮葺・柿葺
95	BAATARSUREN BAT ERDENE	茅 葺
96	橋 本 浩 太 郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
97	東 友 一	檜皮葺・柿葺
98	樋 口 隆	茅 葺
99	檜 篤 広	檜皮葺・柿葺
100	平 尾 零	檜皮葺・柿葺

[五十音順]

No.	氏 名	職 種
101	平 田 将 大	檜皮葺・柿葺
102	平野 健太郎	檜皮葺・柿葺
103	平 野 裕 也	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
104	廣 内 翔	檜皮葺・柿葺
105	深 本 英 昭	檜皮葺・柿葺
106	福 岡 亮 太	檜皮採取
107	福 留 巧 稀	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
108	藤 中 竜 也	檜皮葺・柿葺
109	藤 原 諒	檜皮葺・柿葺
110	藤 原 優	茅 葺
111	洲 上 大 輔	檜皮葺・柿葺
112	古 川 友 喜	檜皮葺・柿葺
113	細 見 知 憲	檜皮葺・柿葺
114	細 見 裕	檜皮葺・柿葺
115	堀 内 博 樹	檜皮葺・柿葺
116	本 多 亮 貴	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
117	毎 熊 徳 満	檜皮葺
118	横 原 孝 宜	檜皮葺・柿葺
119	松 田 哲 也	檜皮葺・柿葺 茅葺
120	松 村 省 弥	檜皮葺・柿葺
121	松 村 純 孝	檜皮葺・柿葺
122	松 村 有 記	檜皮葺・柿葺
123	三 上 昭 信	茅 葺
124	道 繁 康	檜皮葺・柿葺
125	三ツ出 俊平	檜皮葺・柿葺
126	緑 川 幹 雄	檜皮葺・柿葺
127	峰 地 幹 太	檜皮葺・柿葺
128	宮 川 義 史	檜皮葺・柿葺
129	宮 西 寛	檜皮葺
130	向 田 学	檜皮葺・柿葺
131	村 岡 伸 康	檜皮葺 檜皮採取
132	村 上 章 浩	檜皮葺・柿葺
133	森 山 淳 希	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
134	八ッ橋 崇市郎	茅 葺
135	矢 野 友 則	檜皮葺・柿葺
136	山 口 成 貴	檜皮葺・柿葺 茅葺
137	山 口 宗 平	檜皮葺・柿葺
138	吉 竹 秀 紀	檜皮採取
139	余 宮 祥 平	茅 葺
140	和 田 琢 男	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
141	渡 部 雄 太	檜皮葺・柿葺

(2024.5.15現在)

発行所

京都市東山区清水二丁目 205-5
京都市文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

古文化 第132号

令和6年7月31日発行

あ と が き

訪日観光客が3か月連続で300万人を超えるなど、観光立国を掲げてから毎年旅行者が増え続けている日本ですが、観光地ではオーバーツーリズムにより地域住民の生活に支障をきたしており、対策に追われている自治体も多く存在しています。しかし、インバウンドのメリットは、消費額が大きい国内経済に大きな影響をもたらすことです。インバウンド観光客は「食」や「買い物」だけでなく、日本の伝統や文化遺産を体感するために日本を訪れることが多く、SNSでの情報発信により外国人観光客の集客力向上だけでなく日本の伝統文化などが認知される機会にも繋がっています。文化財建造物の保存技術の継承をしっかりと続けていくことが日本の伝統を守ることに繋がっていくのだと思います。

本年度も研修等始まっております。当保存会へのご協力をお願い申し上げます。

■ ふ る さ と 探 訪 ■

きしだ のふゆき
岸田 信行さんのふるさと

「月 鉦 は 我 が 町 の 誇 り」

(京都府京都市)

祇園祭は千年以上前から続く京都最大の祭礼だ。7月1日の「吉符入」に始まり31日の「疫神社夏越祭」まで、1か月にわたって八坂神社と氏子区域にてさまざまな神事・行事がほぼ毎日行われる。

京都で生まれ育った岸田さんは小学校の頃から囃子方として祇園祭に参加し、現在も最大・最重量の山鉦である月鉦保存会の理事を務めている。その岸田さんのふるさと自慢といえば月鉦を紹介しないわけにはいかない。

月鉦の名は、屋根の上から天に向かって伸びている柱(真木)の先端に18金の三日月を頂いていることに由来する。日本神話に登場する月を統べる神、月読尊を祀る鉦なのだ。

屋根の裏側に描かれた金地彩色草花図は円山応挙の筆、破風下のウサギの彫刻は左甚五郎作と伝わる。歴史の教科書に出てくる作家の作品とインドムガル王朝時代の緞通や豪華な刺繍などに彩られた動く美術館なのである。

月鉦は大きさだけでなく高さもトップクラスで、真木の先端は地上から約26mの高みにある。普段は真木、本体とも複数に分解して倉庫に納められ、7月10日から組み立て作業(鉦建て)を行う。

山鉦の中心を成している真木は、屋根を貫いて床下まで達している。まず本体(檣)を組み終わると横寝かしにして中心に真木を通し、先端に三日月、中ほどにご神体をお乗せした後、再び起こす。屋根や舞台、懸装品を取り付けて完成するまでに3日ほどかかる。路上で行われる鉦建ては、京都の夏の風物詩となっている。

祇園祭は元々疫山鉦が街中を巡行する。午前9時から街地の四条通から行する「山鉦巡行」一つでもある。街めないう、巡行日のうちに仕舞わ

病・災厄の除去を祈る祭礼で、して厄を集めるとされている。長刀鉦を先頭に、京都中心市河原町通、御池通を山鉦が巡は祇園祭り最大の見どころの中を巡行して集めた厄をとどを終えた山鉦は各鉦町でそのれる。



鉦頭の三日月

(文・イラスト/米林 真)

古文化

第132号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会